

2016年6月21日

一般社団法人情報システム学会 会員の皆様へ

HIS (Human-oriented Information Systems) 研究会のご案内

下記のとおり7月25日(月)に第2回の研究会を開催いたします。

哲学、倫理学、科学社会学がご専門の村上裕子先生(東北大学)に道徳推論をめぐる問題についてご講演いただきます。参加ご希望の方は、主査までご連絡をお願いいたします。

(会員のご紹介があれば非会員の方も参加できます)

記

- 開催日時：2016年7月25日(月)18時30分～20時30分
- 開催場所：青山学院大学 青山キャンパス
総研ビル(14号館)8階第10会議室(正門を入れてすぐ右手)
<http://www.aoyama.ac.jp/outline/campus/aoyama.html>
- 講演題目及び講演者：『道徳推論をめぐる』
村上祐子先生(東北大学 大学院文学研究科 国際交流室 准教授)

<講演概要>

善悪の判断は、真理と並んで哲学の大きな課題の一つだ。ヒュームは「人間本性論」(1739-40)で、事実命題から規範命題を論理的に導くことはできないことを指摘した。事実の部分が共通していたとしても、異なる価値観では異なる規範命題が導かれる。功利主義を導入したとしても、個々の利害関係者の利害は一致せず、事実のみを根拠に「何が最善か」を論じることはできない。また、美醜の判断についても大きく価値観が影響する。このような「価値観」を基礎とした判断の自動化とはいったい何をすることといえるのだろうか？

実際には「良し悪しを自動判断させたい」とは、評価・価値観そのものを計算可能な表現に落とし込むということだ。たとえば既存のデータの評価は自動化できる部分がある。ゲームは勝利条件が決まっているので、既存のゲーム記録から勝てそうなパターンを選び出す学習を行える。だがわれわれがもっとも善悪の判断を誤りなしに行いたい現実問題では、何をスコープとするかというフレーム問題が直撃する。

ではどのように「自動道徳判断」を進めるのか？ ムーアは自動道徳判断AIのレベルを以下の4つに分類する。結果が道徳的に判断される第1レベル、道徳判断がデータとして入っている第2レベル、自動道徳推論システムを備える第3レベル、人間と同様の責任能力を問われる第4レベルであるが、現在の状況は第3レベルにも達していない。現在の自

動運転車をめぐる議論はすでに第 4 レベルを想定したものであるが、そもそも責任能力とは何かの議論が必要である。

ここで主張したいのは、この議論を行う際にいったん人間と機械の区別を棚上げにすることである。エージェントと概念的に並列し、そのうえで行為主体としての条件を洗いなおすべきである。そして、機械には意識があるか？といった他我問題は見かけの対立にすぎないことも主張したい。人間の他者にも意識がある保証はなく、対話や共生の過程で意識を便宜的に措定しているに過ぎない。もしわれわれ人間が機械も同じように扱うことになれば、機械にも人間と同様の意識があることを措定せざるを得なくなる。このような条件は「合理性」「一貫性」といったほかの概念と関係する可能性が大きく、哲学理論そのものの改定を要請することになる。

もちろん、人間以外に行為能力を認めるのか？という反論への再反論として、すでにわれわれは制度的に人間以外にも行為能力を認めているという事実を指摘しよう。各国では法人格付与というかたちで、人間ではないものに法人格を認めている。だからこれを機械に延長する可能性は議論すべきであろう。もちろん人工知能の責任として製造物責任や使用者責任といった従来の機械・道具と同等に扱う選択肢は残っている。

AI の倫理には、上記のような AI が道徳的判断を行うシステムの開発のほかにも、AI の社会的影響の問題（AI に担わせることが道徳的に正当な作業は何か、など）、また AI 研究の倫理（ジェンダー、軍事転用など）といった側面もあるが、時間も制限されているので扱わない。

●連絡先 研究会主査 川野喜一

kawano.kiichi■nifty.com（■を@に置き換え願います）

以上